

本の紹介

『喜多方物語 ラーメンで町おこしに挑んだ男たち』

著者：荒井尚之（参金会事務局長）、河野浩一（ザ・ライトスタッフオフィス代表）

喜多方といえば、多くの人がラーメンを思い浮かべるでしょう。「福島県喜多方市がどこにあるかはわからないが、喜多方ラーメンなら知っている」という人も少なくないはず。このように喜多方の名が全国に知られるようになったきっかけは、昭和63（1988）年に開催された「ラーメン王国フェスティバル 88」でした。このイベントを企画・開催したのは、毎月第三金曜日に若者たちによる勉強会を開いていた「参金会」でした。

同会が立ち上げられたのは昭和56（1981）年のことでしたが、地方が徐々に衰退していく現実の前に、「喜多方を活性化させるためには、中央からの補助金頼りの行政サイドや、旧態依然とした地元産業界に頼ってはダメだ」と強い危機感を共有するようになります。そして自分たちで様々なシンポジウムやイベントを企画・開催していく中で、ラーメンを起爆剤にすることを思いつきます。そもそも喜多方では来客があると、「喜多方のラーメンはうめえーがら食っていがんしょ」と、近くのラーメン店から出前をとるのが日常で、ラーメンはまさにソウルフードだったのです。

果たして、その企ては大成功でした。テレビや新聞でもニュースとして取り上げられ、喜多方が全国的に知れ渡ることとなりました。その成功からずいぶん時が経ちましたが、人口減少による地域の衰退という構図は加速しています。参金会のメンバーも減り、高齢化も進みました。しかし、黙って見ているつもりはありません。喜多方を、そして日本を元気にするために、これからもできることをやっていきたいと考えています。また、本書が町おこしに挑戦する方々の参考になれば幸いです。（参金会事務局長 荒井尚之）



■本の購入方法

『喜多方物語 ラーメンで町おこしに挑んだ男たち』（刊行：ワック株式会社）

・本体価格1,500円（+税）

・お求めは、全国各地の大手書店や、Amazonや楽天ブックスなどのオンライン書店。